

## 45 医療関連資料（史料）の現状と問題点

○網野 豊・酒井 シヅ

平成六年度厚生科学研究費の特別研究として、厚生省より「医療史料の保存と活用に関する研究」の依頼を受け、昨年十一月から本年一月にかけて、医学・医療に関連した歴史的史料等の展示・保存を行っている博物館・資料館等施設に対し、アンケート調査を実施した。またそれと同時に、医歯薬看護系大学・臨床研修指定病院・医療関連団体・公的または民間の医薬系研究所・製薬及び医療器械メーカーに対し、同様にアンケート調査を実施したので、その結果について発表したい。

この研究の目的は、まず前者の調査については、一、わが国には医療関連の博物館・資料館等が実際どこにどのような規模でどれくらいあるのか 二、そこにはどのような医療関係資料（史料）が保存されているのか 三、

史料の保存管理上どのような問題があるのか 四、わが国の医療文化の保存とその活用のためには何が必要なのか等について、現状と問題点を把握したいということにある。

また後者の調査については、特に大学等の教育・研究の現場において、医学・医療の歴史上価値のある人体及び病理標本、書籍文献・医療施設・医療機器道具類等の保存管理の現状と問題点、及びその施設の沿革を含め、医学・医療の歴史に関する教育がどのくらい実施されているか、またその必要性についてどのように認識されているか等について把握することにある。

前者の調査は、主として全国博物館総覧より抽出した医療関連資料（史料）が展示・保存されていると思われる約九十施設に対して、館長宛にアンケート調査を送付し、特に一部の施設については順天堂大学医史学研究生が実際に訪問し実状を調査した。

調査内容は、一、施設の所在地・休館日・開館時間等の一般的事項 二、設立の目的 三、今後の資料（史料）収集計画及びその選択基準 四、資料（史料）の寄贈また

は収蔵の依頼があった場合の対応 五、展示面積や展示物 六、収蔵庫の有無 七、保存管理上の問題点 八、普及活動・機関誌の発行・図書機能の有無 九、医療関係団体または学校・文化関係団体との交流 十、経営上の問題点（有料入場者数・予算・民間からの寄付・公的機関からの財政援助の有無等）十一、わが国の医療文化の保存と活用に関連して博物館の問題を含めた意見の聴取等である。

後者の調査は、約百八十の医歯薬看護系大学、約二百五十の臨床研修指定病院、約百四十の医療関連団体・約十の公的または民間の医薬系研究所、約二百九十の製薬メーカー、約六百六十の医療器械メーカーの合計約千五百施設に対してアンケート調査を実施した。

調査内容は、一、医学的及び歴史的に貴重な人体標本・病理標本・書籍文献・医療器械道具類を展示・保存するスペースの有無 二、保存管理する基準や委員会の設置及び責任者の有無 三、資料（史料）の購入や保存管理の予算について 四、保存管理上実際に困っている問題 五、施設や関係者の沿革を編纂しているかどうか、また

そのための組織や責任者を決めているかどうか、及びその予算について 六、医学・医療に関する教育・研究・開発の観点から、国立科学博物館や国会図書館に医学・医療部門がないということに対する意見の聴取等である。また特に医歯薬看護系大学を対象にして、医療の歴史を主たるテーマとする講義または見学の有無や必要性について調査した。

抄録提出時点では調査は実施中であるので、その集計結果については学会当日に口演発表したい。

（順天堂大学医学部医史学研究室）